

## 会 議 録

会議の名称		令和4年度第1回吾妻学園コミュニティ・スクール（CS） 推進会議		
開催日時		令和4年（2022年）5月13日 開会 09:30 閉会 11:30		
開催場所		つくば市立吾妻小学校 2階会議室		
事務局（担当課）		教育局生涯学習推進課		
出席者	委員	宮田委員、島本委員、西村委員、白井委員、小池委員、 野本委員、今井委員、中村委員、久松委員、木村委員、 井上委員、木塚委員、国府田委員、庄司委員（オンライン参 加）、布浦委員、長屋委員 吾妻中学校：尾見校長、原教頭、小澤教務主任 吾妻小学校：奥谷校長、川島教頭、内田教務主任		
	その他	—		
	事務局等	教育局長 吉沼正美、学校教育審議監 根本智、次長 飯泉法男 学び推進課 参事 山田 聡、教育総務課長 笹本昌伸 生涯学習推進課長 澤頭由紀子、係長 渡辺幹高、社会教育主 事 渡邊亮太、主任 尾野千明、地域連携教育指導員 杉田慶也、 社会教育指導員 佐藤 博		
公開・非公開の別		<input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 非公開 <input type="checkbox"/> 一部公開	傍聴者数	1人
非公開の場合はその理由				
議 題		1 CSの導入について 2 学校運営の基本方針について 3 学校の教育活動や地域の活動事例の紹介 4 その他（推進会議の今後の予定）		
会議録署名人		確定年月日	年	月 日
会議次第	1 開 会 2 選任通知書交付 3 挨拶 4 座長・副座長の選出 5 協 議 6 閉 会			

<審議内容>

○事務局（渡邊）

- ・本日の資料確認と庄司委員のオンライン参加について説明、配信状況確認。  
→○庄司委員 Zoom 参加確認。

○澤頭課長

- ・開会の挨拶
- ・選任通知書の交付について説明

会場の広さや新型コロナウイルス感染防止等の観点を踏まえまして選任通知書の交付は五十音順で、代表者1名。森田教育長は本日公務のため欠席。吉沼教育局長が代わりに選任通知書を交付。

○吉沼教育局長

- ・選任通知書を交付と地域コーディネーターについて

防災教育や地域活動等でご活躍されております長屋委員にお願いすること。

「CS 推進会議開催要項第4条の（6）前各号に掲げる者のほか、教育委員会が適当と認める者」に該当し、「地域コーディネーター」をお願いする。

○吉沼教育局長

- ・教育長挨拶文代読

○澤頭課長 続いて自己紹介に移ります。

- ・CS 推進会議構成員 自己紹介

○澤頭課長 それでは、教育局の職員を紹介させていただきます。

- ・教育局参加者 自己紹介

○尾野主任 会議の様子を撮影するため、御理解御協力をお願いします。

○澤頭課長

- ・座長と副座長の選出。CS 推進会議開催要項第6条第2項に「座長及び副座長は、構成員の互選により定める」とある。委員に案があるか質問。

○長屋委員 事務局案はありますか。

○澤頭課長 事務局案について

- ・座長 国府田委員【元吾妻中学校校長、現在は保護司、区長として活躍】
- ・副座長 木塚委員【吾妻小中学校の学校評議員、筑波大学教授】

○各委員 異議なし。

○澤頭課長 国府田座長、木塚副座長、よろしくお願ひいたします。

○各委員 お願いします。

○澤頭課長

- ・本日の参加者報告 Zoomでの参加者1名を含む22名
- ・座長である国府田座長に進行を交代。

○国府田委員

- ・書記の事務局案を提示、小池さんをお願いしたい。

○小池委員 お願いします。

○渡邊社会教育主事 CSについて、市の担当者から説明

- ・CSについて
- ・CSの導入計画について
- ・つくば市CSの方向性について

CSを学園単位で導入、2026年の3月までに、市内全学園に段階的に導入、学校評議員制度を生かしながら、学校運営協議会制度に移行していく。

- ・つくば市のCSの機能について

- ①校長が作成する学校運営の基本方針を承認する。
- ②学校運営について、教育委員会または校長に意見を述べることができる。
- ③教職員の任用に関して、教育委員会規則に定める事項について、教育委員会に意見を述べることができる。

④学校評価

※任用とは、学校の課題解決や教育活動の充実のために、また、学校と学校運営協議会が実現しようとする教育目標に適った人材を求めることなので、

特定の職員の任用・採用や、分限及び懲戒に関することではないことを説明。

○国府田委員

学園長、校長より、吾妻学園グランドデザインの説明をお願いします。

○吾妻学園 尾見学園長（吾妻中学校長）

- ・吾妻学園の要覧、グランドデザインの説明。
- ・9年間を見通した小中一貫教育を通して、子供たちの発達段階、学年に応じて、ねらいを達成するために細分化した取り組みや手だてを、3つの育てていきたい力に分類。学び続ける力、感じる力、そして成し遂げる力、の3つを設定している。
- ・吾妻学園、目指していきたい教育目標  
「未来に向かい、たくましく生きる児童生徒の育成」

○奥谷校長（吾妻小学校）

- ・吾妻小学校グランドデザインの説明。
- ・小学校でも「未来に向かいたくましく生きる児童生徒の育成」を目指し、小中一貫教育を通して教育を進めている。
- ・3つの力を育成するための手立て 学校経営の重点6点設定。  
①問題解決的な学習、②思いやりや感動する心を育てる体験学習の充実、③安心して生活できる健康安全教育の充実、④学び続ける力を育てるキャリア教育の充実、⑤一人一人の教育的ニーズに応じた特別支援教育の充実、⑥CSの推進
- ・つくば市の目標でもある「自己決定」を今年は重視していく。
- ・課題設定、対話、振り返りを通して、児童が自立的に学ぶ力を育てる。そして、自己決定の場と振り返りにより、自ら切り開く力を育てる。
- ・本校は外国籍の子供たちも多くて、全校生徒629名中、今年は81名が外国籍の児童。日本語の指導が必要な児童62名。外国籍の子供が多いが、自然に受け入れる体制があることが本学園のよさと思う。その中で、他者と協働する

活動を通して、互いに多様な考えや価値というのを認め合える心を育てるところを、今年度、職員一丸となって取り組んでいきたい。また、発信力が昨年度課題であり意識していきたい。

○尾見中学校長

- ・ 吾妻中学校グランドデザインの説明。
- ・ 学校教育目標を「未来に向かって生きる生徒の育成」に設定。
- ・ 学校経営の重点5つ  
①対話に支えられる心的安全のある学校風土、②信頼を獲得する教職員の経営力、③自己判断・自己決定の場を創出する教育活動、④多様性の尊重と声の支援、⑤学校マネジメントによる働き方改革
- ・ 組織目標3つ  
①深い学びの実現に向けた問いの改善、②生徒の判断し決定する特別活動の展開、③優先順位をつけた校務の効率化・合理化の実践、
- ・ ピアサポートについて
- ・ 生徒会活動を改めててこ入れをしながら、生徒の声を増やし、生徒が学校運営に参画していくような場をつくりたい。
- ・ CS を通して御意見や御理解、御協力をいただきながら、地域と一緒に子供たちを育てるということを、本校のグランドデザインの下支えになる部分として設定した。

○内田教務主任

- ・ 1人1台端末、ICTの活用について。協働ツールを使って説明。授業の中や係活動でも活用。ホタル池やプールを使った総合的なつくばスタイル科の学習、長屋さんの御協力をいただき防災マップ作りなど。

○小澤教務主任

- ・ 言語活用力や創造力を高める学習については、小学校と連携をして研究を進めてきている。ICTの活用は、英語の授業、理科の授業、コミュニケーション

ツールとして有効と感じている。

- ・ピアサポート活動も継続的に行っている異学年による活動。
- ・小学校と中学校の研究主任との話し合いで、今年度は探究学習に進むような方法で研究していきたいという話がある。そういった中でやはりつくばスタイル科を充実させるためには、学校の中だけでは終結できないと考えていて、やはり地域の方からご協力いただきたい。

○中村委員 つくばスタイル科について、教えてください。

○小澤教務主任

- ・つくばスタイル科は、つくば市全体で取り組んでいる総合的な学習の時間のこと。9年間の系統立てた学びの成長等を意識して、小中一貫教育を行うつくば市独自の科目で、世界で活躍する子どもたちの育成を目指し、研究所や人的資源、自然や歴史など、地域の教育的資源を活かした学びスタイルのこと。

○庄司委員

- ・吾妻中学校と吾妻小学校でピアサポートを支える活動をしてきた経験から、今の子どもたちは周りの人からどう思われるかを気にして生きている。
- ・先生方の発表中のキーワードに「発信力を高める」「子供たちの学びの主体性」とあった。日頃から、安心して、自分の意見を言ったり、周りの人たちに自分のことが受け入れられている、認められているということが子供たちの感情として育っていないと、そのようなことができないのではと感じてきた。ぜひそのようなことも含めて、子供たちの発信力を高めていったり、主体制を高めていく上では、そういうことも併せて考えていってほしい。

○奥谷校長

- ・「心理的安全」学校の重点目標に設定している。子供たちが発言できる雰囲気づくりがすごく大事だと感じている。心理的安全「みんな同じではない」こ

と、「多様性」を大事にしていきたい。

○内田主任教諭

・一人一台端末が入り、協働（作業）で端末画面に書く作業で、意見をなかなか言えない児童もタブレットを利用することで、自分の意見を表現しやすくなっている。

○国府田委員 では次に。野本委員どうぞ。

○野本委員

・今回の大きなテーマが、コミュニティと学校ということで理念としては非常に深いものがある。吾妻地区はいろいろな取り組みがなされている地域で、吾妻まつりや防災キャンプなどがある。今回それをもっと、ブラッシュアップというような試みもあると思うが、具体的に、その地域との関係を、小学校、中学校でイメージできるものがあれば教えてほしい。

○国府田委員 はい。尾見校長先生お願いします。

○尾見校長

・今、学校の業務は縮小化しているところがある。しかし、この2年間のコロナ禍で減ってしまった地域との絆をとりもどしていきたいと思っている。

・まずは地域への発信が1年目の取り組み。そこで状況が許す中で、さらに拡張していくとか、連携の組み方を変えていくとか見直しを話し合っていく、それが、2年目、3年目につながり、地域とともに歩める学校、学園ができるんじゃないかなと考えている。

○国府田委員 奥谷校長先生。

○奥谷校長

・新型コロナウイルスの影響で、昨年からはPTAの美化活動を変えた。期間を設けて、好きな時に、出られる人が自由に参加してくださいという内容で行った。他にも学校のために動きたいという地域の力を防災関係、ホテル池の自然観察、環境ボランティアを通じて、OB人材として力を貸していただいている。

○野本委員

・学校と地域の真ん中にはPTAがある。子育てで大変な時期ではあるけれども、このCSを進めていく上で、地域という視点でPTA活動みたいなものをもう一度ちょっと、見直す或いはブラッシュアップしたらどうかなと思う

○国府田委員 宮田さんどうですか。

○宮田委員

・現役世代は子育てに手いっぱいというのが本音。子どもが学校を卒業し、保護者がPTAを離れたとしても、おやじの会のように、OBとして学校に協力できるような体制があるといい。OBの親たちは、現役の保護者から相談を受けたりできる人材バンクになり得ると思う。

○国府田委員 ありがとうございます。どうぞ。

○木塚委員

・地域の力をどう生かしていくか。吾妻学園に関わってきた大人たちが、子どもたちに伝える場を形成するのが理想。吾妻学園の「多様性」は大きな意味があり、子どもたちがお互いを認め合う集団になるかどうかは、多様な集団を形成するには、大人自身が多様なロールモデルを見せないといけない。最初のロールモデルというのは、子供たちにとってほとんど親で、次は先生。そうではない社会を育てるためにはこれがまさに、野本さん、宮田PTA会長がおっしゃったように、地域の力をどういかすかが大切になる。

・子供が卒業しても、親も子育てを卒業しても、専門性を生かしたり、経験を生かして語りができたり、庄司先生のように相談を受けられる能力を持っていたり、人材バンクみたいのをきちっと作っていてもよいのでは。

○野本委員

・木塚委員のお話は、PTAのOB会のような、地域協力委員のような、学校と地域を繋ぐ立場が必要ということ。

・各地域に、小中とも地域交流員、地域協力員がありますので、そのような人



材を中心として、PTA で何ができるだとか、学校と地域をつなぐ何か情報ツールのなものをもうちよつと、やんわりとした形で整備していけなかったところがある。そういうようなことを議論していくのであれば、ちょっと有効な手段かなと思う。

○木塚委員

・そういう形であれば、それほど学校側の負荷も高くはないと思う。

○国府田委員 今度は、吾妻小学校のPTA、どうぞ。

○小池委員

・PTAは一子一役で毎年委員がリセットされるため、PTAが抱えている問題が見えにくく、解決しづらい状態。OBのような立場の人がいてくれると、PTAとしての活動もやりやすくなると思う。例えば朝の立哨にしても、やはり現役の保護者がやるのは難しく、ボランティアのOBや学校の先生方にお任せしているというのが現実。PTAと学校と、そのPTAを卒業した保護者の何か、繋がりができたら、そのPTAの運営も、保護者の不安も解消されるんじゃないかなと思う。

○中村委員

・オンライン授業期間の食事がたいへんだったとか、スマホ依存とか、今の子どもたちが抱えている問題はいろいろあり、保護者の抱えている問題を共有する場があったらよいと思う。教育局、地域の方との交流の場を築くことで、輪が広がっていくのかなと思う。

○国府田委員 わかりました。局長、どうぞ。

○吉沼局長

・いろいろと貴重なご意見ありがとうございました。確かに子育ての中それをやろうとすると、なかなかしんどいところもある。まさにこういう場を通じて、お会いして人となりをお互い知って、そういう関係性を築いていく中で、こういう場の広がりっていうのがどんどん広がってくるのかなと思っている。この会議を大切にしていきながら、いろんな課題、その保護者側の方から見た課題

だったり、学校側からの意見だったりとか、お互いの課題を、お互いが共有し、課題解決のヒントになるような意見を聞きながら話していく。そのような会議になることが大切だと思うので、今後もよろしくお願いします。

○国府田委員 時間も大分たってしまったので、最後。

○木塚委員

・実は会議の進行の中に、「熟議」という時間を用意しておりましたが、さすが吾妻学園の委員の皆様、それを導入しなくても十分熟議になった。この後も、話す時間を取っているのので、後でご意見を伺いたい。

○国府田委員

・令和4年度、学園・各学校のグランドデザインへの賛同。

○長屋委員 地域での活動を事例として、4つ紹介。

・布浦委員 国際交流会について

・小池委員 吾妻小学校図書ボランティア「はっばのおうち」について

・井上委員 吾妻まつりについて

(野本委員) 「吾妻まつり実行委員」で吾妻まつりを運営している。さらにPTAの地域交流委員会が協力している。CSの地域学校協働活動として考えれば、一つの例としては、非常に面白い活動だと思っている。実際子供たち自身も、自分たちのまつりであるって思ってもらえるところまでできていて40年やってきた。

・長屋委員 おやじの会について

○庄司委員

・今子供たちにとって、家庭の教育力の低下、それから地域の繋がりも低下、それが全部学校教育に、先生方の負担となってきたのが現実だと思う。

・この推進会議も機能していると感じた。地域の力がすごくあると感じていて、しかもそれが小学校と中学校、吾妻学園の教育にすごく活かされている。皆様の発表を聞きながら、吾妻学園でこれ以上何ができるのかと思った。

・まずはその子供たちにとってどうしていくのがよいか、先ほどこれ以上何が  
できるかっていうことも、今後この会議も通して、検討していただければあり  
がたいなと思った。非常に感動しました。

○国府田座長 続いて熟議に入りたいと思います。

・ファシリテーターを、吾妻中学校の原教頭先生、吾妻小学校の内田先生に、  
お願いします。

○原教頭

・タブレットの確認と、熟議の流れ（グループ協議など）を説明。

○内田教務主任

・それぞれ話したいこともあるので、タブレットでない場面があってもよい。

○原教頭

・熟議のテーマ「育てたい子供の姿にCSとして何が支援できるのか、学校の立  
場、地域の立場でどう関われるのか」

・渡邊社会教育主事からあった現在の課題、これをどういうふうの実現、課題  
解決していくのかのという話があった。委員の方々のお話の中でも、地域は学  
校に何ができるか。学校は地域とどう繋がるかっていうことをグループ協議で  
進めていきたい。

・地域のリソースをつなげる場、学校で言えばそれが特別活動の場、つくばら  
しさをいかした学びとしては、「つくばスタイル科」が大きな役割があると持っ  
ている。

・庄司先生からこれ以上何々がっていうお話があったが、再構築できると、もっ  
と良くなっていくのかなと感じた。

○内田教務主任 端末の操作説明。

<各グループで熟議を実施>

<全体でシートの意見を共有>各グループ、2分程度で発表。

◆提出された意見◆

○Aグループ（野本委員）

- ・今ある吾妻地区の取り組みを横に繋げていく取り組み。
- ・地域の声をゆるやかに届けられる取り組みが必要(学校に直接でなく、教育委員会や関係部署が受け取るなど)
- ・登下校の状況、危ない箇所の発見
- ・児童、生徒に地域の活動自体を知ってもらう取り組み
- ・地域の活動を継続的につないでいく取り組み、横のつながり
- ・コロナで心の健康を心配。良い方向に持って行けるように。無表情。
- ・子ども食堂なども一つの策。家庭や学校を離れたところでの場の提供。単純な食事の提供だけでなく、子どもの居場所としても役割もある。

→○原教頭

今日ここで、次にどうするか、すぐに答えは出ないので、今回第1回目の会議となり、問題提起も含め、これを記録として残す。この後もどんどんお話をいただきたい。

○Bグループ（長屋委員）

- ・アフターコロナ、ウィズコロナの中での取組を学校、地域とで関わり、関連できる内容を議論する必要がある。

○Cグループ（西村委員）

- ・通学路の危険か所の立哨を教員や個人のボランティアに頼っている状態。地域の方に頼れないだろうか。

○Dグループ（木村委員）

- ・本日の資料、各発表者のご意見は素晴らしいものでした。組織的な継続性、メンバーについて、みなさんの意見を聞きたい。

○Eグループ（井上委員）

- ・ランドデザインの「キーワード」を知りたい(外部団体として何を目指せばよいか)。CSとして、ゴール、目標を明確化する必要がある。

- ・学校で抱えている問題の外部化に貢献したい。

→○原教頭

井上委員の方からのグランドデザインのキーワードについては、今後の課題となるので検討していきたい。また、学校で抱えている問題の外部化に貢献したいという御意見も確認した。

→○井上委員

- ・先生方はどんどん忙しくなっている。本来、外に任せてもよいことをやっている部分がある（立哨のボランティア、中学の部活動など）。児童生徒が、今学校でどんなことをしているのか、地域の方へ語りことで交流することで学校理解が深まるのでは。学校の負担を少しでも減らせるようにという意味で、できれば貢献したい。
- ・グランドデザインを最終的には結実させるために、協力していくときに何に手をつければいいのか。また、最終的にはどんな評価を行っていくか。何か曖昧なことだと、何やりましたってこっちもなかなか言えないので、何か自信をもって言うために、もうちょっと何か明確化されているといいかなと思った。

→○原教頭

ありがとうございます。教員の役割、授業を含めて教員はやっているが、できる役割について働き方改革の中で示されているので、その辺も含め、地域がケアできるものにもお願いするという事も検討する。

○尾見校長

・おじいちゃん、おばあちゃんの世代と、触れ合うことが少ないと思う。おじいちゃん・おばあちゃん世代と接するっていうことが、日本文化、または社会で生きていく中で、学ぶことができるプラスの要素ってたくさんあると思う。

→○国府田座長

吉沼小学校で祖父母学級をやっている。なかなか取り組めない現状もあ

るが。

○奥谷校長

・メンバーが変わっても持続できるコミュニティ、組織が重要。それには無理なく楽しく参加できることが大切。

○内田教務主任

・吾妻小学校の不思議ボックスについて説明。解答はわたしが書いており、一問一答になっている現状がある。この回答を子どもたちの興味を引く形で、地域も含めて大人みんなが答えられないか。

→○井上委員

何かつなぐ人がいると、吾妻は研究所も多いから。できるといい。

→○中村委員

何かNHKでやってたあれですね、子供科学相談みたいなイベントができるといいかな。

→○木塚委員

これも先ほどちょっと似たようなものになるが、それに答えてくれる人を探すための人材バンクみたいなことを先ほど提案させていただいた。或いは、質問が来たのに対して答えてくれる方いますかみたいな、そういうシステムは作ってもいいかなって思う。

→○国府田委員 生涯学習推進課に人材バンクありますよね。

→○渡邊社会教育主事

生涯学習指導者情報というものがある。内容は講座を開いたりするためのもので、求めている内容とリンクするかは検討が必要かなと。

→○長屋委員（つくば科学教育マイスター）

つくばSTEAMコンパスで、似たようなことをやっている。

○原教頭 庄司先生。

○庄司委員

・不思議ボックスの話も面白かった。それから子供食堂で、子どもたちにとって心地よい居場所づくりを進めることで、それが地域の人にとっても居場所になるので、そのような形になると、地域と学校が一体化していくと思う。

○原教頭

・今日いただいた意見について、また今後の方向性は、時間の都合上話せませなかったが、今後の吾妻のCSの深まりの一つのきっかけ、検討事項になればと思っている。

○国府田委員

・それでは原教頭先生、内田先生ありがとうございました。

○長屋委員

・グランドデザインの値目標、学校評価のところについて（次の回で紹介いただけるのでは）。また数値目標は、数字だけ、形式的なところだけが上がってくる。そこは出てきた意見とかを全部とは言わずとも、話し合う内容として考慮していただければと思った。

・配席について検討してほしい。評議員の方の御意見はとても重要でためになるが、現役のPTAの方のご意見をいただくのも僕は重要だと感じた。

○庄司委員

・CS推進委員のみなさんが思いついたことを自由に意見が交換できるような、メンバーだけでできるネット上のシステムをなんか作っていただけたらありがたい。

○国府田委員 次回の開催予定日について、川島教頭先生お願いします。

○川島教頭

・本年度、年3回のCS推進会議を予定。

・次回、令和4年の11月7日月曜日の夕方頃を予定。第3回は、令和5年の2月24日金曜日の日中で、会場は吾妻中学校。また、もう一件、机上の方にCS

のメーリングリストの作成用フォームがあるので、御回答願います。

○国府田委員

ありがとうございました。それでは、協議進行事務局の方にお返しします。

○澤頭課長

- ・本日の会議の様子につきましては多くの方に、見ていただきたく。
- ・市の教育委員会のホームページに写真を掲載。
- ・長屋委員のツイッターでも、会議実施の発信をする。

○渡邊社会教育主事

- ・つくば市の栗原小学校の岡野校長先生の紹介。

○岡野校長（栗原小学校）

- ・つくば校長会、教頭会、教務主任会から、推進委員が選出されてプロジェクトチームを行っている。本日は本当に勉強になった。ありがとうございました。

○渡邊社会教育主事

- ・本日の推進会議の様子を動画作成し、他の学校や今後の研修等で発信する。

○澤頭課長：本日は長い間、皆様ありがとうございました。



# 令和4年度第1回吾妻学園コミュニティ・スクール推進会議

日時：令和4年（2022年）5月13日（金）

9：30～

場所：つくば市立吾妻小学校 会議室

## 次 第

1 開 会

2 選任通知書交付

3 挨拶

4 座長・副座長の選出

5 協 議

（1）コミュニティ・スクールの導入について

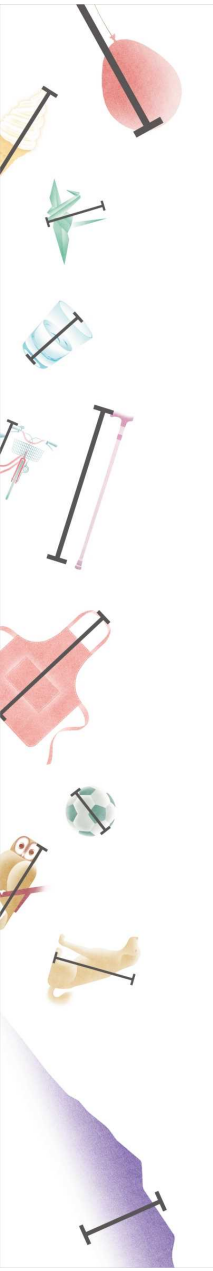
（2）学校運営の基本方針について

（3）学校の教育活動や地域の活動事例の紹介

（4）その他

・推進会議の今後の予定について

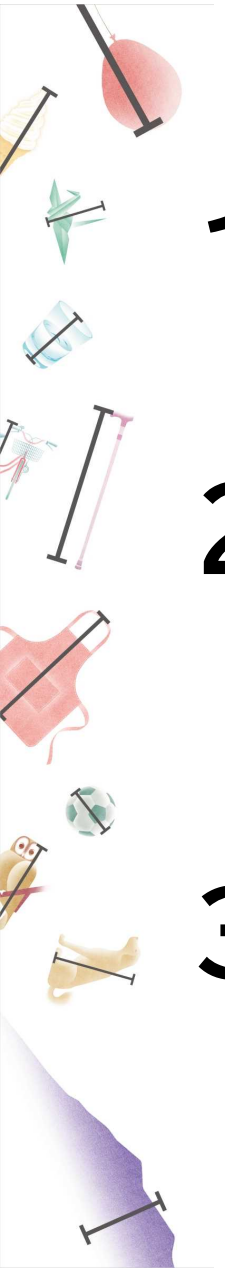
6 閉 会

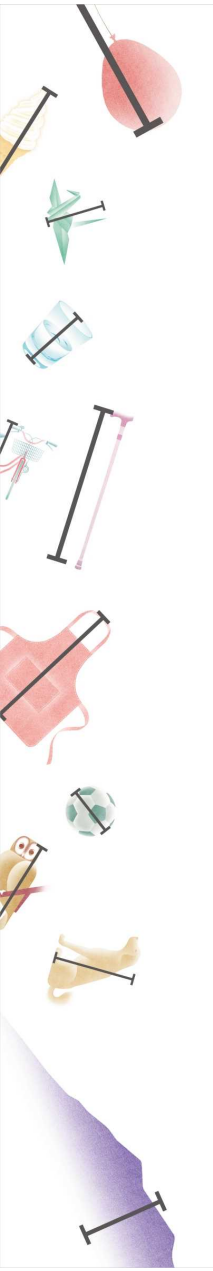


# つくば市 コミュニティ・スクール（CS）について

つくば市教育局生涯学習推進課  
兼 学び推進課  
社会教育主事 渡邊亮太

世界の  
あしたが見えるまち。  
TSUKUBA

- 
- 1 コミュニティ・スクールについて
  - 2 つくば市コミュニティ・スクールの方向性について
  - 3 今後について  
(吾妻学園コミュニティ・スクール)



# 1 コミュニティ・スクール について

# コミュニティ・スクール

地域住民  
保護者  
学校

が

力を合わせて  
子供たちの成長を支えていく

学校

そのための組織

学校運営協議会

を設置している学校



学校と地域の**情報共有・協力・連携・相互理解**

**学校関係者評価の充実**

**教職員の意識改革**

**学校・地域の課題解決**



学校が**元気に!**

地域が**元気に!**



**コミュニティ・スクール**で変わる  
地域とともにある学校の姿

③ 学校・家庭・地域の課題  
解決に向けた動きの進展

**好循環**

が生まれています

① 関わる人々の意識改革  
(当事者意識)

② 保護者・地域住民の教育活動への参画  
学校・家庭・地域の連携強化

学校運営協議会は、学校の良きパートナーになるものです。

(文科省 コミュニティ・スクールって何?! 平成28年7月)

なぜ、コミュニティ・スクール  
(CS) 導入計画をすすめているか



## 社会的背景

- ・ 人生100年時代
- ・ Society5.0
- ・ 地方創生
- ・ 社会的包摂の実現
- ・ 少子高齢化
- ・ 地域活性化の推進 など

## 学校教育

- ・ 学校が抱える課題の複雑化、困難化
- ・ 教育以外の高い専門性が求められるような事案も増加  
生徒指導上も課題や特別支援教育の充実など

### < 予測困難な社会の変化 >

教育固有の問題ではなく、社会全般の問題が増えてきている  
社会や生活の解決なしには成し得ないということ、ましてや学校教育のみでは極めて困難な課題が出てきている

< 新学習指導要領（平成29年告示）の前文で >

< 未来の創り手となる子供たちの成長を支える >

## 「社会に開かれた教育課程」の実現

- ①教育課程を介して目標を学校と社会が共有
- ②子供たちに求められる資質・能力とは何かを社会と共有し・連携する
- ③地域の人的・物的資源の活用、社会と連携・共有しながら学校教育を展開
- ④地域と学校が連携・協働して社会全体で未来を担う子どもたちの成長を支える

必要

- ・ コミュニティ・スクール（学校運営協議会制度）
- ・ 地域学校協働活動  
（学校運営協議会で熟議・協議した内容を具現化する活動）







# 現在の課題

(令和3年(2021年)5月実施 アンケート)

## 学校

地域の方にどれだけ  
関わっていただけるか不安

## 地域

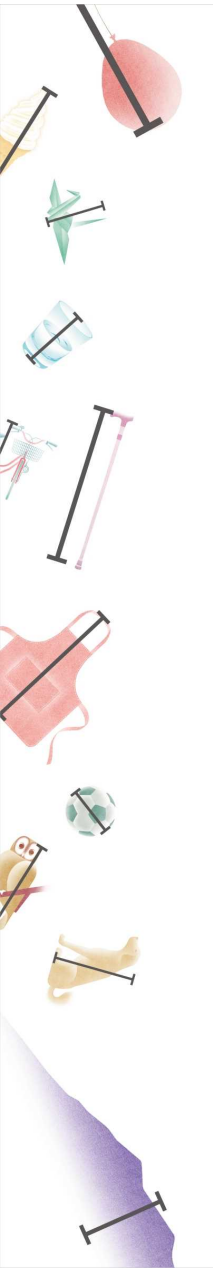
学校との距離を感じてしまい  
もどかしいことも

## 保護者

子供には地域の人と関わる  
機会を多く持ってほしい

コミュニティ・スクールは  
課題解決の  
一つの手段！





# 2 つくば市 コミュニティ・スクール の方向性について

# 導入のポイント

**学園**(中学校区・義務教育学校)**単位**で導入

2022年度から順次導入

➡ **2026年3月までに全学園に導入**を目指す

学校評議員制度を生かしながら導入

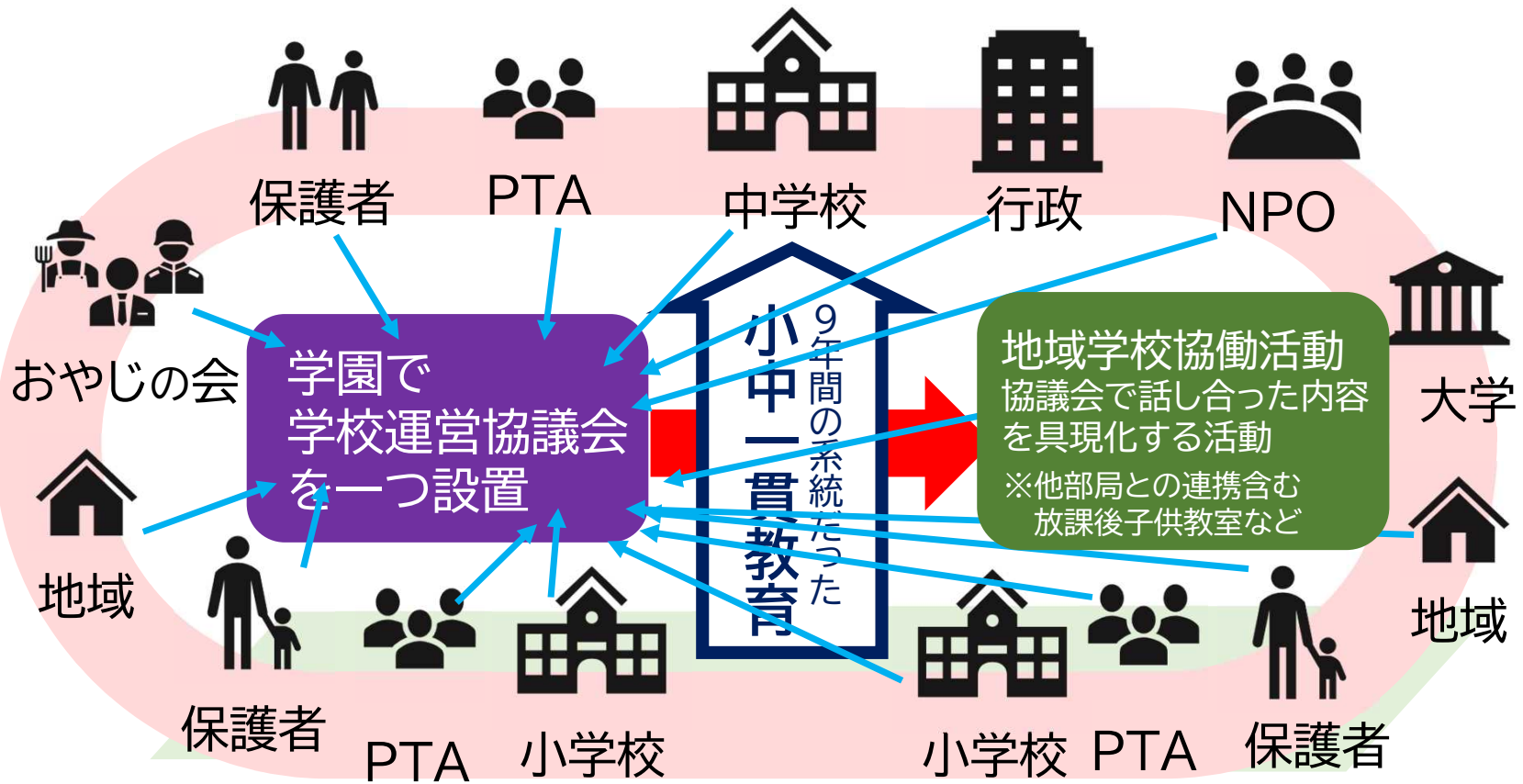
➡ **学校運営協議会制度へ移行**していく



学園(中学校区・義務教育学校)に  
1つのコミュニティ・スクール



横につながる小中一貫教育



2022年度から順次導入 ➡ 2026年3月には全学園で導入

2022年度  
新たに1学園

2023年度  
新たに8学園

2024年度  
新たに6学園

2025年度  
新たに3学園

新設校含めすべての小・中学校、義務教育学校で  
コミュニティ・スクールが誕生!



学校評議員制度を生かしながら導入

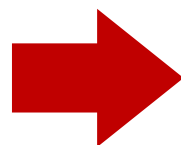
➡ **学校運営協議会制度へ移行**していく

## 学校評議員制度

意見を聞き

**学校**が学校改善に生かす

学校に対して学校評価などに  
意見を  
する場



## 学校運営協議会

議論を深め、

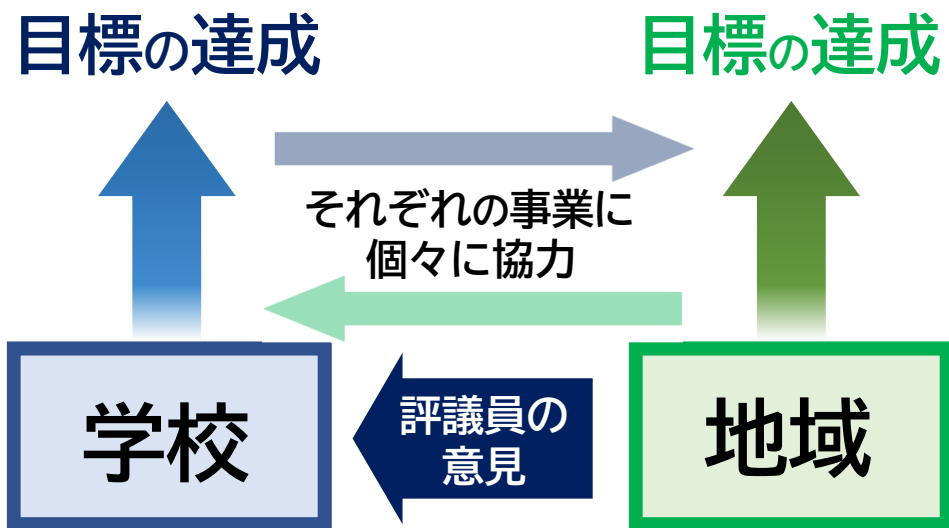
**学校と地域**が**一体**となり活動する

学校評価を基に  
ともに高めていく場

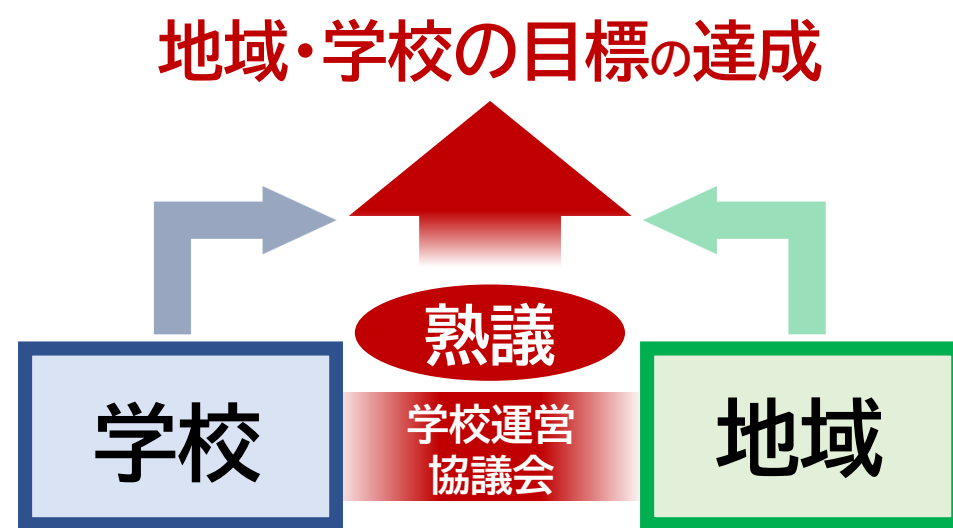
さまざまな方の意見も踏まえながら、  
より幅広く地域の方が学校運営に参加できる仕組みをつくります

# コミュニティ・スクールを導入すると・・・

これまで



これから



地域とともにある学校づくり

まちづくり・人づくり  
につながります





# つくば市コミュニティ・スクールの方向性

「問いから始める学び」を持続する協働体制の推進  
= **持続可能な組織づくり**

つくば・地域・学校のリソースを生かした学校支援体制の推進  
= **社会全体で学校を支援**

「学び」を支える、「つくばらしさ」を生かした  
学習支援体制の推進 = **子供の学びの支援**



## <つくば市コミュニティ・スクールの機能>

- ①校長が作成する学校運営の**基本方針を承認**する
- ②学校運営について、教育委員会又は校長に**意見を述べる**ことができる
- ③**教職員の任用（※）**に関して、教育委員会規則に定める事項について、教育委員会に意見を述べる  
ことができる
- ④**学校評価**  
(学校評議員制度を生かす・学校関係者評価を行う)

※任用とは、学校の課題解決や教育活動の充実のために校内体制の整備充実を図る観点から、学校と学校運営協議会が実現しようとする教育目標等に合った人材を求めることです。特定の職員の採用任用に関すること、分限及び懲戒に関するものではありません。



## R 4 コミュニティ・スクール推進会議

※来年度の本格実施に向け、この推進会議で、吾妻学園のコミュニティ・スクールをどのように「推進」していくか方向性を話し合っていく準備期間

学園の子供たちの成長した姿 どんな子供に育ててほしいか

育てていくためにはどんなことができるか、どんな取組が必要か十分に協議していく

目指したい子供の姿、目標を共有する

※学校評価や本年度の活動を振り返ることなどを通して、次年度以降のグランドデザイン等に反映していく

## R 5 コミュニティ・スクール協議会

(※つくば市での学校運営協議会の名称予定)

目指したい子供の姿、目標を達成するための手立て、それを具現化する手立て地域学校協働活動の展開



つくばの  
未来の創り手となる  
子供たちのために

ご協力よろしくお願いいた  
します。

世界の  
あしたが見えるまち。  
TSUKUBA



令和4年度つくば市吾妻学園コミュニティ・スクール推進会議  
(第1回：5月13日金曜日) 参加者名簿

番号	委嘱の区分	氏名	ふりがな	所属・役職
1	(1) 児童・生徒の保護者	宮田 征門		
2	(1) 児童・生徒の保護者	郡 純子		
3	(1) 児童・生徒の保護者	島本 真帆子		
4	(1) 児童・生徒の保護者	西村 大介		
5	(1) 児童・生徒の保護者	白井 孝幸		
6	(1) 児童・生徒の保護者	小池 久美子		
7	(2) 地域住民	佐々木 慎一		
8	(2) 地域住民	野本 高志		
9	(2) 地域住民	吉田 麻子		
10	(2) 地域住民	今井 孝		
11	(2) 地域住民	中村 恵		
12	(2) 地域住民	久松 尚		
13	(2) 地域住民	木村 浩幸		
14	(2) 地域住民	井上 波彦		
15	(3) 各学校長・教職員	尾見 裕史	おみ ひろし	吾妻中学校 校長
16	(3) 各学校長・教職員	原 成彦	はら しげひこ	吾妻中学校 教頭
17	(3) 各学校長・教職員	小澤 多紀子	おざわ たきこ	吾妻中学校 教務主任
18	(3) 各学校長・教職員	奥谷 雅恵	おくや まさえ	吾妻小学校 校長
19	(3) 各学校長・教職員	川島 真由美	かわしま まゆみ	吾妻小学校 教頭
20	(3) 各学校長・教職員	内田 卓	うちだ すぐる	吾妻小学校 教務主任
21	(4) 学識経験者	木塚 朝博	きづか ともひろ	筑波大学
22	(4) 学識経験者	国府田 友康	こくふた ともやす	吾妻中学校元校長 保護司
23	(4) 学識経験者	庄司 一子	しょうじ いちこ	東海大学
24	(5) 関係行政機関の職員	布浦 万代	ふうら まよ	市国際交流協会 理事長
25	(6) 教育委員会が適当と認める者	長屋 和宏	ながや かずひろ	吾妻学園地域学校コーディネーター

## 会 議 録

会議の名称		令和4年度第2回吾妻学園コミュニティ・スクール推進会議		
開催日時		令和4年(2022年)11月7日 開会 13:30 閉会 15:30		
開催場所		つくば市立吾妻中学校 2階コンピュータ室		
事務局(担当課)		教育局生涯学習推進課		
出席者	委員	宮田征門、島本真帆子、白井孝幸、小池久美子、野本高志、中村恵、久松尚、木村浩幸、井上波彦、木塚朝博、国府田友康、郡純子、布浦万代、長屋和宏、吉田麻子 吾妻中学校：校長 尾見裕史、教頭 原成彦、 教務主任 小澤多紀子 吾妻小学校：校長 奥谷雅恵、教頭 川島真由美、 教務主任 内田卓		
	その他			
	事務局等	教育長 森田 充、教育局長 吉沼正美、 学校教育審議監 根本 智、教育局次長 飯泉 法男 学び推進課 : 参事 久松 和則 生涯学習推進課：課長補佐 色川 純子、生涯学習推進係長 渡辺 幹高、主査(社会教育主事) 渡邊 亮太、主任 尾野 千明、地域連携教育指導 員 杉田 慶也、社会教育指導員 佐藤 博		
公開・非公開の別		<input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 非公開 <input type="checkbox"/> 一部公開	傍聴者数	1人
非公開の場合はその理由				
議 題		1 各校の教育活動について 2 地域、保護者等の活動について 3 熟議「吾妻学園コミュニティ・スクール(CS) これからの一手」 4 その他(推進会議の今後の予定)		
会議録署名人			確定年月日	年 月 日
会議次第	1 開 会 2 座長より 3 学園の教育活動について 4 熟議「吾妻学園CS これからの一手」 5 閉 会			

〈審議内容〉

1 開 会

(1) 教育長挨拶 (2) 学園長挨拶 (3) 座長挨拶

2 座長より

(1) 第1回議事録の確認

3 学園の教育活動について

(1) 各小中学校より ※5月から11月までの教育活動について

- ・「あづまる活動」について、子どもたちが交流する活動について説明

○小澤委員より中学校の教育活動について

- ・コロナ禍で中止の、中学生から小学生への学習支援やピア・サポート活動の再開。部活動での見守りボランティアの実施

○内田委員より小学校の教育活動について

- ・教育活動等へのボランティア（おやじの会、保護者OB等）や中学生からの支援（防災教育、防災ディキャンプ、吾妻まつり、5年宿泊学習）
- ・吾妻まつりにおける学習発表（4年つくばスタイル科）

(2) 地域、保護者等より（各小中学校PTAより、地域諸団体より）

○小池委員より小学校のPTA活動について

- ・今年度のPTA活動のテーマ「がんばらないためのアップデート」
- ・今年度の新たな取組（歩こう会、マンション居住者の交流の場等）の説明
- ・学習面・安全面のサポートを強化（立哨、学習指導補助、通訳等）
- ・保護者間の風通しをよくし、地域ぐるみで子育て推進

○宮田委員より中学校のPTA活動について

- ・地域社会と連携し、保護者同士が協力して活動している姿が大切
- ・学校おやじの会と連携・協力し、ボランティア活動（校門前の芝生）を実施
- ・効率的な連絡や連絡範囲の拡大には、オンラインツールの活用が有効

○島本委員より、茨城県立医療大放射線学科の鹿野先生の活動を説明。

○井上委員から

- ・ 学びの場としての吾妻まつりに対する児童の反応を把握して、次年度へ反映
- ・ 第2のPTAとなり負担にならないようにCS推進会議を推進

4 熟議「吾妻学園CS これからの一手」

(1) CSの「ねらい」や「方向性」についての確認

(2) 学校評価アンケートへのCSに関する記載について熟議を実施

(3) 各グループの発表

ア Aグループ（原委員発表）

- ・ 設問「地域とともに児童生徒の育ちを支えることは大切だ」の追加
- ・ 部活動の地域移行の検討

イ Bグループ（野本委員発表）

- ・ 吾妻、つくばの特性、ニーズや強みを生かしたCS推進

ウ Cグループ（井上委員発表）

- ・ 吾妻学園が目指すCSの方向性に関する話し合いが必要

エ Dグループ（長屋委員発表）

- ・ アンケートに記載する内容は、今後も検討していくことが必要
- ・ ボランティア精神のある人材発掘等の検討

(4) その他

ア 長屋委員より

- ・ 社会福祉協議会のボランティア団体登録に、PTAが登録できないのはなぜか。

イ 野本委員より

- ・ 行政側で人材バンクみたいなものはあるか。  
→ 生涯学習指導者登録制度がある（生涯学習推進課担当者回答）
- ・ 大学生が授業の一環として体験できる活動があるとよい。

5 閉 会



## 令和4年度第2回吾妻学園コミュニティ・スクール推進会議

日時：令和4年（2022年）11月7日（月）

13：30～15：30

場所：つくば市立吾妻中学校コンピューター室

### 次 第

#### 1 開 会

- (1) 教育長挨拶
- (2) 座長挨拶
- (3) 学園長挨拶

#### 2 座長より

- ・第1回議事録の確認

#### 3 学園の教育活動について

- (1) 各小中学校より
  - ・小中一貫の教育活動
- (2) 地域、保護者等より
  - ・各小中学校PTAより
  - ・地域諸団体より

#### 4 熟議「吾妻学園CS これからの一手」

- (1) CSの「ねらい」や「方向性」についての再確認
  - ・グランドデザインをもとに
- (2) (1)を踏まえ、学校・地域・CSとしてできること
  - ・学園、小、中学校として
  - ・保護者として
  - ・CSとして

#### 5 閉 会

## 令和4年度第1回吾妻学園コミュニティ・スクール（CS）推進会議の内容について

○開催日時 令和4年5月13日 開会 09:30 閉会 11:30

○開催場所 つくば市立吾妻小学校 2階会議室

○出席者 34名

### ・委員

宮田委員、島本委員、西村委員、白井委員、小池委員、野本委員、今井委員、中村委員、久松委員、木村委員、井上委員、木塚委員、国府田委員、庄司委員、布浦委員、長屋委員  
吾妻中学校：尾見校長、原教頭、小澤教務主任

吾妻小学校：奥谷校長、川島教頭、内田教務主任

・その他 校長会 CS プロジェクトチーム栗原小学校：岡野校長（傍聴者）

### ・事務局等

吉沼教育局長、根本審議官、飯泉次長、学び推進課：山田参事、教育総務課：笹本課長  
生涯学習推進課：澤頭課長、渡辺係長、渡邊社会教育主事、

尾野主事、杉田地域学校教育指導員、佐藤指導員

## ○協議内容

### 1 開 会

2 選任通知書交付（代表者：井上 波彦 委員）

3 教育長挨拶（吉沼局長 代読）

### 4 座長・副座長の選出

・委員自己紹介

・座長：国府田委員（元吾妻中学校長、保護司、区長）

・副座長：木塚委員（筑波大学体育学群教授、元PTA会長、小中学校評議員）

### 5 協 議

(1)つくば市のCSについて（社会教育主事 渡邊）

(2)学園・各学校のグランドデザイン説明（尾見校長、奥谷校長）

(3)学校の教育活動の紹介（小澤教務主任、内田教務主任）

(4)地域の活動事例の紹介（各PTA会長から、図書ボランティア、読み聞かせ、吾妻祭り、おやじの会、国際交流協会等）

(5)熟議（ファシリテーター：原教頭、電子機器説明：内田教務主任）

テーマ 「未来に向かいたくましく生きる児童生徒の育成～9年間の学びの中で～」

(6)事務連絡（川島教頭） ・次回の会議について 2022年11月7日(月) ※時間は後日連絡

### 6 閉 会

## 会 議 録

会議の名称		令和4年度第3回吾妻学園コミュニティ・スクール推進会議		
開催日時		令和5年(2023年)2月24日 開会13:50 閉会16:15		
開催場所		つくば市立吾妻中学校 2階コンピュータ室		
事務局(担当課)		教育局生涯学習推進課		
出席者	委員	宮田 征門、郡 純子、島本 真帆子、小池 久美子、野本 高志、吉田 麻子、中村 恵、久松 尚、木村 浩幸、木塚 朝博、国府田 友康、布浦 万代、長屋 和宏 吾妻中学校 校長 尾見 裕史、教頭 原 成彦、教務主任 小澤 多紀子 吾妻小学校 校長 奥谷 雅恵、教頭 川島 真由美、教務主任 内田 卓		
	その他			
	事務局等	教育総務課 課長 笹本 昌伸、主事 田崎 智也 学び推進課 参事兼教育相談センター所長 久松 和則 生涯学習推進課 課長 澤頭 由紀子、課長補佐 色川 純子、生涯学習推進係長 渡辺 幹高、主査(社会教育主事) 渡邊 亮太、主任 尾野 千明、地域連携教育指導員 杉田 慶也、社会教育指導員 佐藤 博		
公開・非公開の別		<input type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 非公開 <input checked="" type="checkbox"/> 一部公開	傍聴者数	1人
非公開の場合はその理由		授業参観は、情報公開条例第5条第1号(氏名等個人に関する情報)を取り扱うため。		
議 題		1 小中学校の学校評価から見えてきた課題 (1) 学校評価の結果について (2) 次年度育てたい児童生徒像について 2 授業参観7年生 3 熟議「吾妻学園コミュニティ・スクール(CS) 育てたい児童・生徒像の次年度の手立て」		
会議録署名人			確定年月日	年 月 日
会議次	1 開 会 (1) 学園長挨拶			

第	<p>(2) 座長挨拶</p> <p>2 議 事</p> <p>(1) 座長より</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 第 2 回 議事録の確認</li> <li>・ 第 3 回 協議の確認</li> </ul> <p>(2) 小中学校の学校評価から見えてきた課題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学校評価の結果についての説明（各教頭）</li> <li>・ 次年度育てたい児童生徒像について（各校長）</li> </ul> <p>(3) 授業参観 7 年生</p> <p>(4) 熟議「吾妻学園 C S 育てたい児童・生徒像の次年度の手立て」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>① 次年度育てたい児童生徒像の共有</li> <li>② 次年度の育てたい児童生徒像への手立て</li> </ul> <p>3 閉 会</p>
<p>&lt;審議内容&gt;</p> <p>1 開 会</p> <p>(1) 学園長挨拶</p> <p>(2) 座長挨拶</p> <p>2 議 事</p> <p>(1) 座長より</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 第 2 回 議事録の確認</li> <li>・ 第 3 回 協議の確認</li> </ul> <p>(2) 小中学校の学校評価から見えてきた課題</p> <p>○吾妻小学校（川島委員）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学校生活や授業に対する項目、愛校心に関する項目の数値が高い。</li> <li>・ 他の設問と比べると、地域や保護者同士の関わりに関する項目が低い。</li> </ul>	

○吾妻中学校（原委員）

- ・生徒も保護者も学校生活、学習に関する項目の数値が高い。
- ・地域の担い手の自覚、地域や保護者同士の関わりに関する項目が低い。

○吾妻小学校（奥谷委員）

- ・来年度は「体験」を意識し、将来と繋げて学ぶことのできる児童、人ともつと関わりたいという気持ちをもつ児童を育てていきたい。

○吾妻中学校（尾見委員）

- ・コロナ禍で、外での「体験的活動」が少ない。CS、地域との繋がりを考え、吾妻まつりや防災キャンプ等に関われる学習面を充実させたい。
- ・生徒がコミュニティに求められる人材となるよう、地域の人たちと協力していきたい。

(3) 授業参観（7年生）

(4) 熟議「吾妻学園CS 育てたい児童・生徒像の次年度の手立て」

川島委員（ファシリテーター）よりテーマの説明

- ・学校評価の結果より、キーワードは「人間関係」と「つながり」。テーマは「学校の教育課程や授業、地域学校協働活動を通して、学校として、地域として、保護者として何ができるか」について話し合ってもらいたい。

各グループの発表

①Aグループ（小澤委員発表）

- ・子供を主体に保護者や地域が関われる、横縦で繋がる機会の検討
- ・市の指導者登録制度を活用し、専門的な知識を持つ人材を把握

②Bグループ（尾見委員発表）

- ・学校と地域の窓口になる人材が必要
- ・保護者や地域等の横の繋がりを広げていけないか検討

③Cグループ（宮田委員発表）

- ・情報発信だけにとどまらず、対面による地域と繋がる場の大切さを検討
- ・活動する内容が明確で短時間でできるサポート募集等の周知の工夫を検討

④Dグループ（内田委員発表）

- ・学園・学校の実態等を考慮した多様性のある人材バンク等の検討
- ・子供たちが地域に向けて発信できる学習内容の検討

3 閉会

①第2回長屋委員の質問に対する回答

- ・社会福祉協議会のボランティア団体登録に、PTAが登録できないのはなぜか。
- 社会福祉協議会に問合せた結果、ボランティア団体登録の基準として広く市民を対象とした事業や活動であることと回答があった。PTAは該当校の保護者で組織した任意団体で、活動の対象は該当校に通う子供たちの支援であるため登録対象にはならないとのことだった（生涯学習推進課担当者回答）。

②第2回野本委員の質問に対する回答

- ・大学生が授業の一環として体験できる活動があるとよい。
- 当課のつくば未来塾事業で、筑波大学と連携協力し、インターンシップ授業、教育実習の代替えとして学生に体験していただいている。また本年度より、社会教育実習でも本事業を体験していただいた（生涯学習推進課担当者回答）。

## 令和4年度第3回吾妻学園コミュニティ・スクール推進会議

日時：令和5年（2023年）2月24日（金）

13：50～16：15

場所：つくば市立吾妻中学校コンピューター室

### 次 第

#### 1 開 会

- (1) 学園長挨拶
- (2) 座長挨拶

#### 2 議 事

- (1) 座長より
  - ・第2回 議事録の確認
  - ・第3回 協議の確認
- (2) 小中学校の学校評価から見えてきた課題
  - ・学校評価の結果についての説明（各教頭）
  - ・次年度育てたい児童生徒像について（各校長）
- (3) 授業参観7年生
- (4) 熟議「吾妻学園CS 育てたい児童・生徒像の次年度の手立て」
  - ① 次年度育てたい児童生徒像の共有
  - ② 次年度の育てたい児童生徒像への手立て

#### 3 閉 会

## 令和4年度第2回吾妻学園コミュニティ・スクール（CS）推進会議の内容について

○開催日時 令和4年11月7日 開会 13:30 閉会 15:30

○開催場所 つくば市立吾妻中学校 2階コンピュータ室

○出席者 33名

・委員 21名

宮田委員、島本委員、白井委員、小池委員、野本委員、中村委員、久松委員、木村委員、井上委員、木塚委員、国府田委員、郡委員、布浦委員、長屋委員、吉田委員

吾妻小学校：奥谷校長、川島教頭、内田教務主任

吾妻中学校：尾見校長、原教頭、小澤教務主任

・その他 傍聴者 1名

・事務局等 11名

森田教育長、吉沼教育局長、根本学校教育審議官、飯泉次長、学び推進課：久松参事

生涯学習推進課：色川課長補佐、渡辺係長、渡邊社会教育主事、尾野主事、杉田地域連携教育指導員、佐藤社会教育指導員

○協議内容

### 1 開 会

(1) 教育長挨拶 (2) 学園長挨拶 (3) 座長挨拶

### 2 座長より

(1) 第1回議事録の確認

### 3 学園の教育活動について

(1) 各小中学校より ※5月から11月までの教育活動について

・「あづまる活動」について、子どもたちが交流する活動について説明

○小澤委員より中学校の教育活動について

・コロナ禍で中止の、中学生から小学生への学習支援やピア・サポート活動の再開。部活動での見守りボランティアの実施

○内田委員より小学校の教育活動について

・教育活動等へのボランティア（おやじの会、保護者OB等）や中学生からの支援（防災教育、防災ディキャンプ、吾妻まつり、5年宿泊学習）

・吾妻まつりにおける学習発表（4年つくばスタイル科）

(2) 地域、保護者等より（各小中学校PTAより、地域諸団体より）

○小池委員より小学校のPTA活動について

・今年度のPTA活動のテーマ「がんばらないためのアップデート」

・今年度の新たな取組（歩こう会、マンション居住者の交流の場等）の説明



- ・学習面・安全面のサポートを強化（立哨、学習指導補助、通訳等）
- ・保護者間の風通しをよくし、地域ぐるみで子育て推進

○宮田委員より中学校のPTA活動について

- ・地域社会と連携し、保護者同士が協力して活動している姿が大切
- ・学校おやじの会と連携・協力し、ボランティア活動（校門前の芝生）を実施
- ・効率的な連絡や連絡範囲の拡大には、オンラインツールの活用が有効

○島本委員より、茨城県立医療大放射線学科の鹿野先生の活動を説明。

○井上委員から

- ・学びの場としての吾妻まつりに対する児童の反応を把握して、次年度へ反映
- ・第2のPTAとなり負担にならないようにCS推進会議を推進

#### 4 熟議「吾妻学園CS これからの一手」

(1) CSの「ねらい」や「方向性」についての確認

(2) 学校評価アンケートへのCSに関する記載について熟議を実施

(3) 各グループの発表

①Aグループ（原委員発表）

- ・設問「地域とともに児童生徒の育ちを支えることは大切だ」の追加
- ・部活動の地域移行の検討

②Bグループ（野本委員発表）

- ・吾妻、つくばの特性、ニーズや強みを生かしたCS推進

③Cグループ（井上委員発表）

- ・吾妻学園が目指すCSの方向性に関する話し合いが必要

④Dグループ（長屋委員発表）

- ・アンケートに記載する内容は、今後も検討していくことが必要
- ・ボランティア精神のある人材発掘等の検討

(4) その他

①長屋委員より

- ・社会福祉協議会のボランティア団体登録に、PTAが登録できないのはなぜか。

②野本委員より

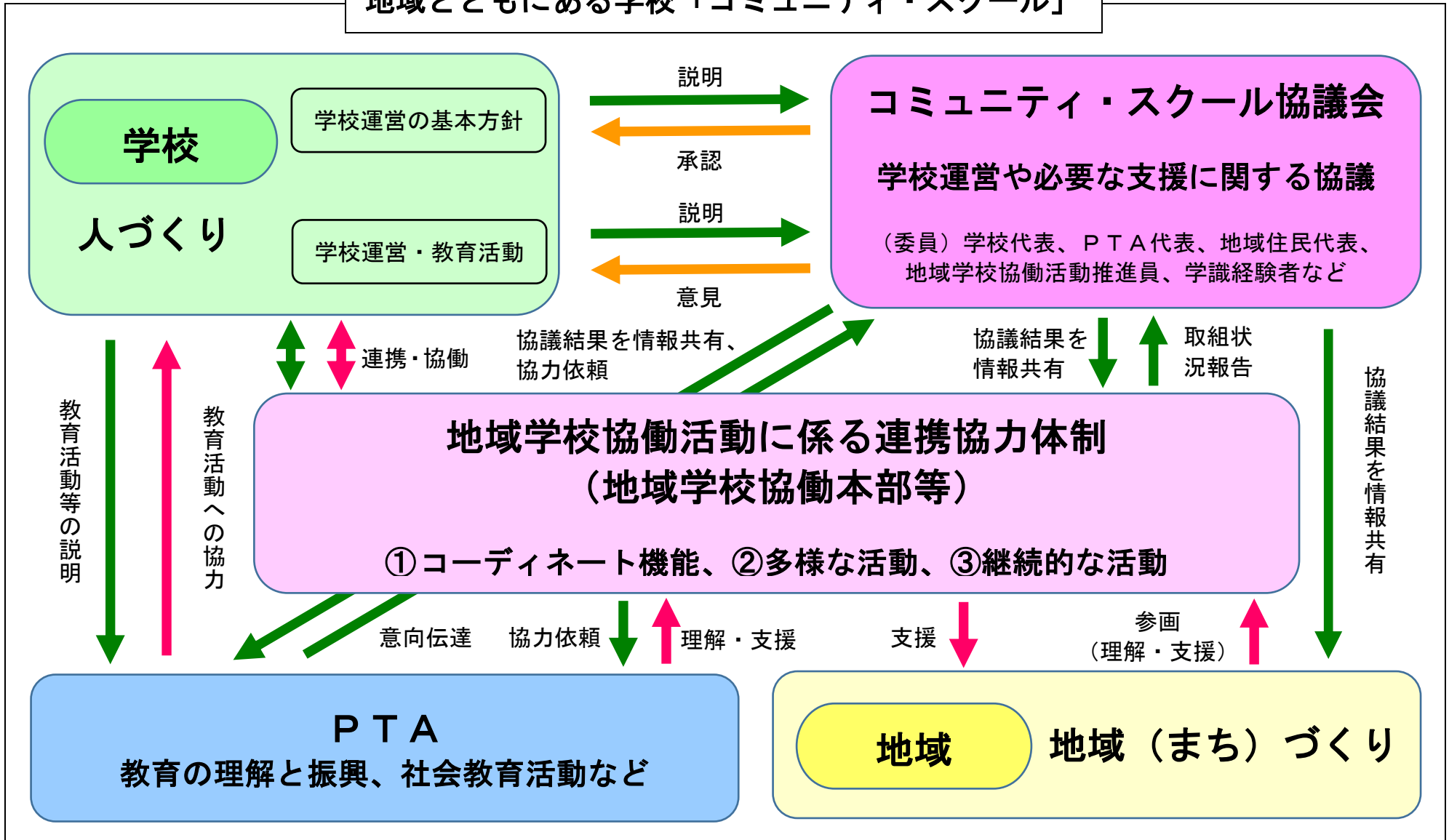
- ・行政側で人材バンクみたいなものはあるか。  
→ 生涯学習指導者登録制度がある（生涯学習推進課担当者回答）
- ・大学生が授業の一環として体験できる活動があるとよい。

#### 5 閉 会

目標やビジョンの共有

地域とともにある学校「コミュニティ・スクール」

学校や地域の連携・協働



# 吾妻っ子



## つくば市立吾妻小学校

令和5年1月24日

学校評価アンケートへのご協力ありがとうございました。

12月に行いました、webにより「学校評価アンケート」へのご協力をいただき、誠にありがとうございました。保護者の皆様から、貴重なご意見、ご示唆をいただきました学校評価結果を真摯にとらえ、今後、この集計結果を反映させて、学校運営に取り組んで参ります。今後とも、本校の教育活動にご理解とご協力をどうぞよろしくお願いいたします。

令和4年度 学校評価アンケート結果

質問内容	1	2	3	4
先生は、子どもの関心、意欲を高め、理解しやすいような授業を工夫していると思う。	223	147	14	6
先生は、ICT（コンピューターや映像機器）等を活用して分かりやすい授業を心がけていると思う。	221	147	15	7
学校は、教員の複数体制での指導等、児童一人一人の力を伸ばす授業に努めていると思う。	176	168	39	7
学校は、学校行事や体験活動等、児童の豊かな心の育成に努力していると思う。	225	146	17	2
学校は、当番活動や係活動を通して、児童が達成感をもてるように努力していると思う。	225	147	18	0
学校は、教育方針や児童の様子を、学校だよりやホームページなどで分かりやすく伝えていると思う。	171	176	33	10
お子さんは、気持ちのよい挨拶ができていると思う。	128	180	70	12
お子さん、学校生活のルールやマナーを守っていると思う。	187	182	17	3
お子さんは、体力をつけ、健康な生活を心がけていると思う。	170	183	35	2
学校は、子どもが相談しやすいと感じられる人間関係づくりに努めていると思う。	147	209	30	4
保護者として、家庭学習（宿題や自主学習など）を子ども自身が計画して進められるように努めている。	127	196	61	6
保護者として、家庭では子どもの規則正しい生活をさせるよう心がけている。	162	213	15	0
わたしは保護者として、家庭での子どもとのコミュニケーションの場を大切にしている。	237	143	10	0
学校は、保護者や地域との連携を大切にし、信頼される学校づくりに努めていると思う。	165	197	23	4
学校は、地域にとって誇れる学校だと思う。	233	141	11	4
学校の先生は、積極的に地域の人々を活用した授業づくりに努めていると思う。	151	195	36	8
保護者として、地域の中で自分の子供が育てられているという安心感がある。	123	172	82	12
保護者として、一年前に比べ、保護者同士の人間関係が広まっていると感じる。	56	104	189	41

1：当てはまる 2： だいたい当てはまる 3： あまり当てはまらない 4：当てはまらない

## 保護者アンケートの自由記述より全体に関すること <感想など>

- 先生や学校の取組詳細までは知り得ないので、回答しにくい。
- 先生方が、子供たちの登校時に沿道に立ち、朝から元気に挨拶していいい。
- 先生が学校での様子をこまめに報告してくれるのでありがたい。
- OPTAの仕事が負担だと感じる。
- 芸術発表会をはじめ様々な経験は子供の感性を豊かにするものであると感じるし、先生方の言葉は子供の安心につながっている。
- コロナ禍3年目だが、先生方は子供たちにできるだけ様々な経験と子供らしく学び成長できる環境を与えてくれている。
- このほかのご意見・感想、自由記述の中には、各教員に向けての励ましの言葉や感謝の言葉があり、子どもたちのために働いている私たちにとって大きな励みとなりました。**

## 保護者アンケートの自由記述より全体に関すること <質問・ご意見・ご要望など>

- ① お知らせが電子化されたため、見逃すことがある。
- ② 給食の時間がきちんと確保されているのかわからない。
- ③ 子供たちは、挨拶をしない。こちらから挨拶をしても返事がないことがしばしばある。
- ④ 運動会やドレミファンタジーはコロナ禍前の規模に戻してもよいのではないか。
- ⑤ ボールや一輪車など、体を使う遊び道具をもっと自由に使えるようにしてほしい。
- ⑥ 体育館で自由に遊べるようにしてほしい。
- ⑦ 学校の様子がわかりにくい。HP等の情報発信が極めて少ない。

- ①スクリーンで配信したお便りのマークの色を変えて分かりやすくしました。
- ②給食の時間は、学校の時程表で決まっています。低学年は準備や片付けに時間が取られないように年度初めは早く始めて食べる時間を確保できるようにしています。
- ③挨拶運動等を実施して、挨拶をできる雰囲気を作っていくようにしていきます。
- ④ウィズコロナの時代でもありますので、感染状況を見ながら考えていきたいと思えます。
- ⑤使用可能な道具については、整備をしていきたいと思えます。
- ⑥休み時間の使用については、職員が付きまますので短期間で実施していきます。
- ⑦学校での活動状況をお知らせできるよう更新を増やしていきます。

### 【地域行事や地域との連携について】

- ① コミュニティスクールとしての活動で、小学校で花、野菜を栽培、販売（フリマ等）を子供たちで行う（学校、保護者、地域がサポート）のはどうか。
- ② はっぱのおうちが行っている本の修復を子供たちにも教える場を設ける。（本の仕組みを知る、本を大切に作る気持ちが芽生えるかも）

- ①検討していきます。
- ②検討していきます。

### 【学校生活について】

- ① 教科担任制について、どの教科でどんな授業をしているのか親の方では把握しにくい。
- ② 子供たちと向かい合い寄り添い、話を丁寧に聞いてほしい。スクールカウンセラーの先生の存在も学校への安心感につながっている。

- ①学校だより等でも授業を取り上げてお知らせしていきます。
- ②保護者、児童の皆さんどちらもご利用できます。担任にお申し出ください。



学校評価アンケートの結果から ～ご協力ありがとうございました～

本年度も学校評価における「保護者アンケート」へのご協力、ありがとうございました。本年度も168名という、多くの方からご回答をいただき、あらためて保護者のみなさまの、お子様の教育への関心の高さが伺えます。また、本年度は、吾妻学園がつくば市内の各学園(小・中・義務教育学校)に先駆けて、「コミュニティ・スクール」を立ち上げたことは、既に保護者のみなさまもご存じかと思えます。そのため本年度は、それらに関連する評価を中心に、若干、調査項目の変更等をいたしましたので、ご承知おきください。

<保護者・生徒ともに評価が高かった項目(「当てはまる」・「だいたい当てはまる」の合計)> (%)

番号	アンケート項目	保護者	生徒
1	先生は、生徒の関心・意欲を高め、理解しやすいような授業を工夫している	92.9	92.8
2	先生は、ICT(コンピュータや映像機器)等を活用し、分かりやすい授業を心がけている	94.8	95.3
4	学校は、学校行事や体験活動、部活動等、豊かな心を育てるために努力している	94.1	92.8
5	学校は、生徒企画運営による学校行事等、生徒主体の活動を行っている	95.2	94.5
6	学校は教育方針や子どもの様子を、学校だよりやHPなどで分かりやすく伝えている	92.9	93.3
8	子ども(自分)は、学校生活のルールやマナーを守っていると思う	97.6	92.8
15	吾妻中学校は、地域にとって誇れる学校だと思う	97.6	88.7
16	学校(先生)は、安心・安全な学校をつくろうと努力している	97.6	94.8

どの項目も、昨年度と同様に高い評価です。本校の教育活動への取組が、保護者にとっても、生徒にとっても満足できるものであるということが伺えます。しかしながら、設問15「地域にとって誇れる学校」については、保護者に比べ生徒の値が、若干ですが低くなっています。「Azuma Pride」をもって…、生徒には、自分たちの学校に心から誇りがもてるような手立てが必要と考えます。

<保護者・生徒ともに評価が低かった項目(「当てはまる」・「だいたい当てはまる」の合計)> (%)

番号	アンケート項目	保護者	生徒
7	子ども(自分)は気持ちの良い挨拶ができています	84.5	81.4
9	学校は、いじめ防止や子ども(自分)の成長に向けて、家庭と密に連絡を取っていると思う	79.7	76.8
10	子ども(自分)は、体力をつけ、健康な生活を心がけていると思う	81.5	78.3
11	学校は、子どもが相談しやすいと感じられる人間関係づくりに努めていると思う	83.3	84.6
12	保護者として(自分は)、家庭学習(宿題や自主学習)が習慣になるように努力している	79.7	80.9

設問9「家庭との連絡体制」については、電話やメール、必要に応じて面談や家庭訪問などのあらゆる方法で、抜けなく行っていきたいと考えます。設問10「人間関係づくり」については、本校が10年以上地道に取り組んでいる「ピア・サポート活動」を、さらに充実・発展させていく必要があることが分かりました。

<保護者と生徒の評価が分かれた項目(「当てはまる」・「だいたい当てはまる」の合計)> (%)

番号	アンケート項目	保護者	生徒
3	先生は、少人数授業や、複数の先生の指導など、一人一人の力を伸ばす授業に努めている。	77.4	93.3
13	保護者として(自分は)、家で規則正しい生活をするように心がけている。	92.3	78.4
14	保護者として(自分は)、家族とのコミュニケーションの場を大切にしている	97.0	85.1

設問3「一人一人の力を伸ばす授業」については、学校のPR不足だと感じました。コロナ禍の中でも少しずつ行動が緩和されていますので、感染状況を考えながら授業参観等を実施していきたいと思えます。設問13・14については、「親の心、子知らず」といったところでしょうか？ 両方とも大切にしたい点ですので、引き続き各家庭での取組をお願いいたします。

<(新設)地域との連携・協働について(「当てはまる」・「だいたい当てはまる」の合計)> (%)

番号	アンケート項目	保護者	生徒
17	学校(先生)は、積極的に地域の人々を活用した授業づくりに努めている	82.7	76.8
18	保護者として(わたしは=中学生)、地域の中で育てられているという安心感がある。	80.3	66.0
19-1	保護者として(わたしは=中学生)、一年前より、地域の人との人間関係が広がっていると感じる	30.9	65.5
19-2	保護者として、一年前に比べ保護者同士の人間関係が広まっていると思う	37.5	
20	保護者として(わたしは=中学生)、一年前より、吾妻中の先生との人間関係が広がっていると感じる	54.2	91.2
21	保護者として、自分の子供が一年前に比べ「地域の担い手」としての自覚が高まっている わたしは(=中学生)、一年前に比べ「地域の担い手」という自覚がある	47.0	49.5
22	保護者として地域とともに児童生徒の成長を支えることは大切なことだと思う わたしは(=中学生)、お家の方々や、地域の方々に支えられ、成長していくことは大切なことだと思う	97.0	92.3

本年度新設された項目です。設問17・19・21から、学校、保護者、子どもそれぞれが、「今の自分の立ち位置から、一歩先へと踏み出す勇気」に課題があるように感じました。いっぽうで、設問22「家庭や地域とともに子どもが育つことは大切である」という項目が高い値を示していることから、「学校・家庭・地域の連携」は吾妻中にとって大切であることが分かります。コミュニティ・スクールがエンジンとなり、学校、家庭、地域が手を携えて「地域とともにある学校、吾妻中」の具現化に努めていきたいと思えます。(教頭 原 成彦)